

「あかつき」とのご縁

上新 文枝

長女の小学校入学を控えた昭和四十三年九月、大阪市内から箕面市如意谷に転入。家族四人と犬一匹。近くの山や谷を歩き回っていた頃、たまたま「あかつき」へ登る坂道に入りました。

今ほど大きな木もなく明るい草原のような感じで左側の山も枯葉に覆われ、斜面を滑り降りて遊んだりしながら、更に進むと左側に女性の胸像が立っており、右手には、礼拝堂がありました。

行き止まりのようで、引き返す時、大きい建物の玄関に「北原病院」の看板があり、黒い服の修道女らしき方を見かけたので、キリスト教関係の施設かな？と思いましたが、

この頃、やはり黒い服の外国の神父様が家の前を時々、通っていらっしやいました。細くて背が高く黒いリュックを背負って、近所の方と話したりして居られましたが、いつの頃からか姿を見かけなくなりました。

箕面に住みだして二十年余り過ぎ、平成になった頃から夫が難病を患い、平成七年に人工呼吸器装置の療養生活になりました。「あかつき在宅介護支援センター」からヘルパーさんの派遣、その他、平成十一年六月末に亡くなるまで、大変お世話になりました。

夫が亡くなって一年過ぎた頃、「あかつき」の空地を花

壇にできるなら、好きなようにやってほしいとのお話をヘルパーさんを通して頂き、趣味の花作りができる!!と喜んでお受けしました。

ところが、土というより砂利に土が混ざっている固い土地で、何から手をつけようかと、暫くは、途方に暮れました。

やり始めて少し経った頃、神戸から毎月、お見えになっていた“バラード神父様”から“玲子像”の前を花壇にとの依頼で、この時は、職員の方が、耕運機で掘り返して下さいました。

野津施設長や職員の助力を受けながら十年目にして何とか花壇らしくなったかと思えますが、手入れは生き届かず、あれもこれもと思うばかりです。暇を見つけては、森の空気を吸い、土に触れ、植物に触れることで、“リフレッシュ”し元気に過ごせることを感謝しております。